

# てんてん

15.12 No.22  
発行市原町  
責任 0883-88-5292  
元気が  
新年を  
迎えます

# 狸な話に傾東に

二好市内で隣の山城町は、大歩危小歩危で有名ですが、昨今は、鬼さ爺爺様の地として、注目されていますが、その山城で、まを面白そうに話か……。その話は、丁度土讃線南通入戸止牛を記念して、地域にある「狸な話」を語りおこし、「狸話の里」としてのイベントがあるそう。その為かどうか、この年の「狸」の話題が目立った。夜、車を走っていると一回ぐらいは狸を見かける。所がこの日は次々と見かけたのである。祖谷の狸は、山城のイベントにあわせて、祖谷にも生かそうと主張でもしている様がある。どのが、車が来ると、急いで側溝や草むらの中の伊へ走り込む。所が、ある所の狸は、かたはは、早然と車が通りすぎるのを待つ様子。ガードレールの下から、右みえたおの動作を繰り返す。安全を確認して、山側へと移動して、お見事！とおもえば、次の日の朝、道路にカウ入が散利いる。なんと交通事故にあたる狸が……。その肉を朝食にしているよう。カウ入は嬉しい



食卓を囲んでいるが、狸は、短いか長いかわらないが、彼が彼女の一生が終ったよう。ちなみに、山城の狸まつりには、手作りの狸が昼用に出張し、パレードをこなすよう。他、狸の七曲り狸、まね狸と多くの狸話があるよう。その話、子供の頃、同ころの山の中に燈火があると、それは、狸のまうらんとおこしという話を聞かされて、夜のトイレは少々おこる人ごよう。それにしても「汽車狸」というのもありましたが、土讃線南通すると狸の世界で、汽車が走り出したこのどううか？ なんと夢のぼい自分に身をおかされた。

狸が盛り上っている山城、祖谷では、リカヤサンを見かけるのは、そろそろ一回はありませぬ。歓迎に指定された、リカヤサンは、逃と生活をせざるをえませぬ。何となくもやうという話もあり、専門に、狸いじりをする人といひ、いい取業だ。

生きる場所を考へる自由を守り  
創るために、私達はまず、思い上がった権力にくたばを打ちこまよくはなるか  
自由と平和のための平又存心



りする。ま、リカヤ猪の肉は、ヒビエと言われ、販売も出来る様になつて居る。た、人間様は、食事が大変なせいだ。人に、た、肉は、喜ばせません。人間の牛が育つた牛やブタ肉が、うまいと言われ、く育つてくるので、なかば……。ニホンカモシカも家の近くで見かけます。山の人の住人だつたのですが、生きるとして住人を愛するをえたいの。人、近くでよく見かけるといへば、ヤマガラ。そのヤマガラ、ヒマワリが好きな様で、祖谷の山で、あつた。ついでに、手まけて、様で、縁側に居ると、飛んできて、ビックリする時があります。年の中のヒマワリを獲りに来たり、庭を歩けば、追いかけて来る、可愛い、いけな。